

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22510264

研究課題名（和文）

アフリカの開発＝発展におけるパラダイム・シフトに関する総合的地域研究

研究課題名（英文）

Integrated area studies on the paradigm shift of the development of Africa

研究代表者

島田 周平（SHIMADA SHUHEI）

東京外国語大学 大学院総合国際学院 教授

研究者番号：90170943

研究成果の概要（和文）：

本研究では、開発計画にとって阻害要因とされてきた「アフリカの特徴」が持つポジティブな面を抽出し、今後の開発計画に生かす可能性を検討した。アフリカ農民の生業活動の多様性、それを支える社会的ネットワークの発達、牧畜民の移動性と結びついた社会組織の柔軟性、さらに狩猟採集民の知識や技術の再生産システムの豊かさなどは、今後の開発にあたって充分考慮され活用されるべき点であることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：

We examined African features which are claimed to be “barriers” for the development and tried to find out positive potentials in them for new development. We scrutinize some of characteristics such as; diversified activity of people (bricolage and de-agrarianisation), farmers’ preference of risk avoidance than profit-maximization, vigorous social networks, rich knowledge of environment of herders, flexibility of pastoral society, and rich and socially interwoven technology and knowledge. The merits of these characteristics had been underestimated, disregarded or even avoided in the development plans. We suggest that some of those “barriers” should be reappraised from the point of sustainability and resilience of livelihood of people.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
2012 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：アフリカの開発＝発展、開発阻害要因、アフリカの潜在力、パラダイムシフト、総合的地域研究

### 1. 研究開始当初の背景

現代のアフリカは、国民国家の枠組の動揺や地域・民族紛争の激化、環境破壊や旱魃、食料生産の低迷、貧困の拡大と新たな伝染病の流行など、数多くの問題を抱えている。

これらの問題に対して、日本や欧米をはじめとする国際社会はさまざまな形で膨大な額に及ぶ開発援助を行ってきた。しかし、その多くは必ずしも期待された成果をあげてきていない。その一因として、開発援助を行ってきた側がアフリカの文化的、社会的複雑性や多様性を十分に理解していなかったことが指摘されている。

アフリカの生態、政治・経済、社会・文化などに関するフィールド研究は、自然と共存する人びとの生業の多様性、それを支える豊かな在来知識と技術、活気ある相互扶助のシステムやインフォーマル経済活動などについて多くの研究成果を蓄積してきた。この様なアフリカの人びとが持つ豊かな知識や多彩な文化的潜在力を、開発計画に活かす必要性が現在問われている。そして、アフリカの開発＝発展を実現するためには、これまでの開発援助とは異なる発想のもとに、パラダイム・シフトが必要となるのではないかという問題意識が提起されてきている。

### 2. 研究の目的

本研究は、アフリカの開発＝発展のために、従来は阻害要因とされてきた「アフリカの特徴」を明確化し再評価することを一つの目的とした。そして、アフリカ人自身がこれまで長年にわたる経験と観察を通して蓄積してきた知識や技術、文化、社会組織などが有する潜在力を発掘して、それを開発計画に活用するためのパラダイム・シフトを構想することをもう一つの目的とした。

### 3. 研究の方法

第一に、開発計画が失敗してきた要因

を整理し、それを「アフリカの特徴」として抽出した。開発計画に関する報告書や研究書を渉猟し、アフリカで実際に開発に携わってきた専門家に聴き取りを行った。

そして第二に、こうして抽出した阻害要因が今後の開発計画に活用できるかどうかその可能性を検討した。従来マイナス要因とされてきた「アフリカの特徴」を、開発計画を成功させるための資源として再評価するための理論構築を試みた。それによりアフリカの開発＝発展に関するパラダイム・シフトが構想できないか検討した。

### 4. 研究成果

本研究では、代表者の島田が社会的要因を、分担者の太田と高田がそれぞれ生態的、文化的要因を担当した。

島田は、アフリカの農民の生業の多様性を明らかにし、これまでの農村開発計画が食料生産増大に比重を置きすぎている点を指摘した。また農民の行動様式にみられる平準化や危険分散化指向、それと関係する社会的ネットワークの重要性についても述べ、これらの点も重視されてこなかったことを指摘した。また農村社会における権力構造にも注目し、開発計画の推進のためには伝統的権威が担っている役割の評価が必要であることを示唆した。

太田は、乾燥地域で生きる牧畜社会におけるこれまでの開発計画が、植生や気候の変化に臨機応変に対応する牧畜民の常識を理解せず、移動性の確保や柔軟な社会組織といった特徴を正當に評価せず失敗してきたことを明らかにした。今後の開発計画では、牧畜民が持つこれらの特徴を抑圧せず、むしろ積極的にそれらを活用することの重要性を指摘した。

高田は、狩猟採集民社会にみられる知識や技術の伝統的再生産の仕組みを追究し、

直接狩猟に役立つトレッキング活動はもとより、一見無関係に見られる歌/踊りの中にも知識や技術の再生産の仕組みが組み込まれていること、しかしながら最近の社会変容の中でその仕組みが機能しなくなっている可能性を指摘した。他方、多くの開発計画が「進んだ」知識や技術の教育を導入によって現地リーダーを育成しようとして失敗しているという深刻な状況にあることも明らかにした。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 13 件)

- ① 島田周平、レジリエンスと突発的エピソード、*開発学研究*、査読有、Vol. 23-3、2013、pp. 1-5
- ② 高田明、行為の堆積を知覚する：グイ／ガナのカラハリ砂漠における道探索実践、(片岡邦好・池田桂子編、*コミュニケーション能力の諸相：変移・共創・身体化*、ひつじ書房)、査読有、2013、pp. 97-128
- ③ 島田周平、2000年代ナイジェリアの地域紛争過激化について考える、*アジアワールド・トレンド*、査読有、No. 205、2012、pp. 14-17.
- ④ 太田至、東日本大震災とフクシマ、そしてアフリカ地域研究：アルトゥーロ・エスコバルのポリティカル・エコロジー論、(島田周平教授退職記念事業実行委員会編、*多様性・流動性・不確実性*、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)、査読なし、2012、pp. 78-82
- ⑤ Takada, A., Pre-verbal infant-caregiver interaction. (In A. Duranti, E. Ochs, & B. B. Schieffelin eds., *The handbook of language socialization*. Oxford: Blackwell)、査読有、2012、pp. 56-80
- ⑥ 高田明、親密な関係の形成と環境：ナミビア北中部のクン・サンにおける養育者-子ども間相互行為の分析から、(西真如・木村周平・速水洋子編、*講座 生存基盤論 第3巻 人間圏の再構築：熱帯社会の潜在力*、京都大学学術出版会)、査読有、2012、pp. 23-51
- ⑦ 島田周平、脆弱性研究から考える社会のレジリエンス、*建築雑誌*、査読有、No. 127-1629、2012、pp. 20-21
- ⑧ 島田周平、アフリカの農家世帯の脆弱性をどう捉えるか (杉原薫・脇村孝平・藤田幸一・田辺明生編、*歴史のなかの熱帯生存圏—温帯パラダイムを超えて—*、京都大学学術出版会) 査読有、2012、pp. 415-437.
- ⑨ 島田周平、ナイジェリア産油地域における地域紛争の特徴：最近の研究成果と解決への模索、*季刊地理*、査読有、Vol. 63-1、2012、p. 52
- ⑩ 高田明、転身の物語り：サン研究における「家族」再訪、*文化人類学*、査読有、Vol. 75(4)、2011、pp. 551-573
- ⑪ Takada, A., Language contact and social change in North-Central Namibia: Socialization via singing and dancing activities among the !Xun San. (In O. Hieda, C. Konig & H. Nakagawa eds., *Tokyo university of foreign studies: Studies in linguistics Vol. 2, Geographical typology and linguistic areas: With special reference to Africa*, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins)、査読有、2011、pp. 251-267
- ⑫ 島田周平、脆弱性の視点からみるアフリカ農業・農村考、*アフリカ研究*、査読有、76、2010、pp. 43-45
- ⑬ Takada, A., Changes in Develop-

Trends of Caregiver-Child Interactions among the San: Evidence from the !Xun of Northern Namibia, *African Study Monographs, Supplementary Issue*, 査読有、Vol. 40、2010、pp. 155-177

〔学会発表〕(計 26 件)

- ①高田 明「グイ／ガナにおける環境知識の伝達と生成」、九州大学大学院人間環境学研究院学際シンポジウム「教えるということ:その起源を考える」、(2013. 3. 19)、九州大学、(招待講演)
- ②Takada, A. *Responsibility in giving and taking activity: Analysis of directive sequences between Japanese caregivers and children*, International Union of Anthropological and Ethnological Sciences 2012 Inter-Congress: Children and Youth in a Changing World, (2012. 11. 26), Bhubaneswar, India
- ③Takada, A. *Re-enacting birth: The spread of the chebama ritual among the G/ui and G//ana*, 111th Annual meeting of American Anthropological Association, (2012. 11. 15), San Francisco, (招待講演)
- ④ Shimada, S., *Understanding the vulnerability of African farmers living with uncertainty*, 32<sup>nd</sup> International Geographical Congress, (2012. 8. 30) Koln, Germany
- ⑤島田周平「ナイジェリアの「地域紛争」」アジア経済研究所夏期公開講座、(2012. 7. 27) JETRO 大会議室
- ⑥ Takada, A. *An inter-subjective foundation for encouraging morality: Communicative musicality in caregiver-child interactions among*

*the San of north-central Namibia*, Satterthwaite conference/festschrift in honour of Richard Werbner, (2012. 7. 26), Satterthwaite, U. K.

- ⑦島田周平「ナイジェリアにおける共生の中の暴力的紛争」東北学院大学社会福祉研究所オープンカレッジ、(2012. 7. 21)、東北学院大学 (招待講演)
- ⑧Takada, A. *Socializing practices and kin relationships among the !Xun of Ekoka*, 50th Anniversary Conference of the Centre of African Studies, University of Edinburgh: CAS@50: Cutting Edges and Retrospectives, (2012. 6. 8), University of Edinburgh, Scotland, (招待講演)
- ⑨島田周平「レジリエンスと突発的エピソード」日本国際地域開発学会、(2012. 5. 19)、日本大学生物資源科学部
- ⑩高田 明 「リズムの調整と道徳性:サンの養育者-子ども間相互行為における共同的音楽性」早稲田大学応用脳科学研究所主催シンポジウム「母子の相互作用を科学する」(2012. 3. 28)、早稲田大学、(招待講演)
- ⑪島田周平「私のアフリカ研究の軌跡ー流動性、多様性、秩序を見つめてー」京都大学アフリカ地域資料研究センター公開講演、(2012. 3. 12)、京都大学稲盛会館
- ⑫Takada, A. *Intimate relationships and the environment: Developmental transition of caregiving activities among the !Xun of North-central Namibia*, International conference: In search of sustainable humanosphere in Asia and Africa. (2011. 12. 5), Kyoto University
- ⑬Ohta, I., *African Potentials, Customary Knowledge and Institutions, and Persistent Face-to-face Interactions*, International symposium

on “Conflict Resolution and Coexistence through Reassessment and Utilization of ‘African Potentials’ ”, (2011.12.3-4), Nairobi, Kenya.

⑭Ohta, I., *Individual Amity and Collective Enmity: Social Relationships between the Turkana and Refugees in Kakuma Area, Northwestern Kenya*, 110th Annual Meeting of the American Anthropological Association, (2011.11.16-20), Montreal, Canada.

⑮Takada, A. *From rhythm to morality: Communicative musicality among the San of Southern Africa*, International conference: Intersubjectivity: From birth for life, (2011.10.15), St. Cecilia’s Hall, Cowgate, Edinburgh, Scotland

⑯Shimada, S. *An analysis of African farmers’ vulnerability: From a study of a village in Central Province, Zambia*, 3<sup>rd</sup> Lusaka Resilience Workshop, (2011.8.25), Golf Hotel, Lusaka.

⑰Takada, A. *Surname and inter-ethnic relationships of the Ekoka !Xun*. 4th International Symposium on Khoisan Languages and Linguistics: The hunter-gatherer legacy of Khoisan-speaking peoples: in memory of Hans den Besten (1948-2010), (2011.7.12), Riezlern/Kleinwalsertal, Austria (招待講演)

⑱島田周平 「アフリカの小規模農民の脆弱性について考える」東北地理学会春季大会、(2011.5.14)、東北大学片平さくらホール

⑲Takada, A. *Responsibility formation*

*in early caregiver-child interactions among the !Xun of North-Central Namibia*, International conference: Towards an anthropology of childhood and children: Ethnographic fieldwork diversity and construction of a field, (2011.3.9), Institute of human and social sciences, University of Liege, Belgium

⑳島田周平 アフリカ研究最前線、アフリカ研究資料センター公開講座「可能性に生きる」、(2011.2.19)、京都大学稲盛会館

㉑Shimada, S., *African studies in Japan and in Kyoto University: A rough sketch of Japanese African studies*, (2011.2.14), African Studies Centre, Leiden University

㉒島田周平「脆弱性をどう捉えるか:レジリアンスの理解に関連して」国際開発学会、(2010.12.4)、早稲田大学

㉓島田周平「ナイジェリア産油地域における地域紛争の特徴:最近の研究成果と解決への模索」東北地理学会、(2010.9.18)、北海道学園大学

㉔島田周平「多文化共生と地域紛争:アフリカで起きていること」東北学院大学社会福祉研究所オープンセミナー、(2010.7.3)、東北学院大学、(招待講演)

㉕高田 明「エスニシティ・ドック:ナミビア北中部に住むクンのライフストーリー分析」日本アフリカ学会、(2010.5.29)、奈良県文化会館

㉖高田 明「転身の物語り:サン研究における「家族」の復権」GCOE イニシアティブ4「親子のつながり」ワークショップ、(2010.5.15)、京都大学

[図書] (計3件)

①太田至他、明石書店、ケニアを知るための55章(松田素二・津田みわ編)、2012、

232-236 (難民と地元住民のあいだの多元的  
で錯綜した関係：カクマ難民キャンプ  
と地元民トゥルカナ)、254-256 (家畜と  
ともに生きることを学ぶ — 牧童L君の  
一日)

② 島田周平他、総合地球環境学研究所、  
社会・生態システムの脆弱性とレジリア  
ンス (梅津千恵子編)、2011、266-275.

③ 太田至他、平凡社、新版アフリカを知  
る事典、」、2010、9-12 (東アフリカ牧  
畜民の生活と文化)、280-281 (トゥルカ  
ナ)、302 (ヌバ)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

島田 周平 (SHIMADA SHUHEI)  
東京外国語大学・大学院総合国際学  
院・特任教授  
研究者番号：90170943

### (2) 研究分担者

太田 至 (OHTA ITARU)  
京都大学・大学院アジア・アフリカ地域  
研究研究科・教授  
研究者番号：60191938

### (3) 研究分担者

高田 明 (TAKADA AKIRA)  
京都大学・大学院アジア・アフリカ地域  
研究研究科・准教授  
研究者番号：70378826